

かわら版

(夏号 NO 9) 2015/07/01 発行
年二回発行(1・7月)

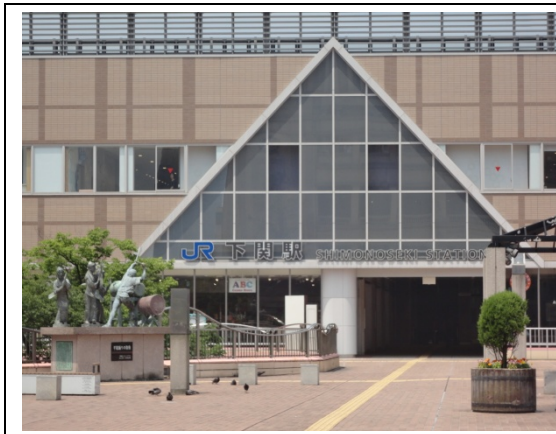
下関市立大学落語研究会 OB 会発行
大学同窓会のご好意でバック NO も全て HP に
掲載されています。同窓会活動報告とともに
是非ご覧ください!!

編集長 西川 隆喜

国敗れ古稀(こき)を迎へし我が国の

行く先深く思へ国人 (NO 7,011)

<直訳>先の大戦に敗れて 70 年の月日を経た。護憲派であれ改憲派であ
れ国会議員も国民も真摯に国のあり方を考えてほしいものだ。



(改装後の JR 下関駅正面・改札は中二階)



(高杉晋作が挙兵した長府の功山寺)

暑中お見舞い申し上げます!!

市大落研 OB・OG の皆様お元気でご活躍のことと存じます。心より暑中お見舞い申し上げます!

さて、21 世紀、日本の火山噴火を考えると、2000 年に最大で住民 1 万 6 千人が避難した有珠(うす)山(北海道)と全島が避難した三宅島(東京都)からはじまり、昨年の御嶽(おんたけ)山(長野県、岐阜県)噴火、阿蘇(熊本)はじめ活発な活動が続く桜島(鹿児島県)においては爆発的噴火が今年も 600 回近く起きている。

そして4月には蔵王山（山形県、宮城県）で地震が、箱根山（神奈川県）で火山性地震が増え、5月の口永良部島（鹿児島）噴火と日本列島いたるところで火山活動が急速に高まったように感じられる。

ロシア・中国・北朝鮮の軍事的脅威やイスラム国のテロ行為に備えなくてはならないのはもちろんだが、現在の日本における最大の脅威は実は国土そのものにあるのかもしれない。（編集局）

『あばら家一門の還暦二人旅』

旅の始まりは、去年の暮れの一本の電話だった。携帯電話の表示は西川とある。出ないと

あいつは警察に安否確認をする恐れがあるので少し迷いながらも出る。話の内容は今、流行りのLCCで2月に、鹿児島へ行くとのことであった。ああそうかさよならで切れば良かった。しかし片道2千円ですわねんという言葉について反応してしまった。小生も鹿児島に会社にいた時



沖縄美ら海水族館にて(左より沖井・西川氏)

にお世話になった先輩がおり、彼もまた良く知っている人であったので一緒に会いに行くこととなりました。その打ち合わせをしている最中に、新たにジェット

スターのセールがあり、急遽、**沖縄への二人旅**も計画・実行されることと相成った訳です。小生は4月20日に大阪へ飛び、前泊をして、あくる日から一緒に沖縄へ行くという段取りでした。まず最初に驚いたのは、13年ぶりに飛行機に乗ったのですが、搭乗ゲートに入るジェットスターの乗客のほとんどが、**レジのレシートみたいな搭乗券**を持っていたことです。小生はというと自宅のパソコンで出力(ウェブチェックイン)したA4の紙切れ1枚だし、そんなの持っている人は周囲では見かけんし、本当にこんな乗れるんかいなとドキドキしていましたが、光にバーコードを当てるだけでスムーズに乗れたのでホットー安心でした。やっぱり時々、飛行機で旅行はせんとあかんなー。

福岡を出る時は生憎の空模様で機材繰りのためで出発が一時間遅れ、大阪へ着く頃には雨も振出しなんとなく前途多難の様相を呈してきました。やっぱりあの時電話をスルーしとけば良かったかなと後悔しながらホテルで1泊。

翌朝、関西空港で朗志と落ち合い、いざ沖縄へ、曇ってはいたが定刻どおりの運行で2時間の飛行中、朗志がしゃべり倒してアツという間に沖縄へ到着、曇っていてもさすが沖縄、蒸し暑く車はクーラーが必要です。到着後はネット予約していた2,300円の格安軽四レンタカーが出払ってレンタル不能・・・でマツダの普通車を使ってくださいとのこと。

ラッキー! ラッキー! 大喜びの二人でありました。

これで不安な空気も吹っ飛び、一路、東南植物楽園へと向かったのであります。道中は慣れのため昼食はコンビニ弁当となってしまう、日が照りつける店の駐車場の車止めに腰をおろし食事をする始末となった。丁度、通りかかった米軍兵のおばさん奥さんらしい人が我々を笑いなが見・通り過ぎていったのがひどく印象的でありました。

東南植物楽園では 60 歳以上は入園料割引が適用され還暦の有難さを感じ、ホテルへチェックインすると、これまたネット予約のマウントビュー・一人 3,440 円の朝食バイキング付きが、最上階 14 階のオーシャンビューの和洋室に案内され、ホンマかいなど驚きつつ感激し、しばし休息の後、楽しみにしていた美ら海水族館へと向かったのです。さすがに 3 頭のジンベエザメが泳ぐ姿や大きなマンタが泳ぐ姿は圧巻で、13 年前に転勤で沖縄にいた時には見られなかった規模の水槽に歳を忘れて、胸をワクワクさせてしまいました。

その夜は遅くまで朗志君のお喋りに付き合い、あくる日はのんびりと海中道路を走り、青い海を満喫して、那覇空港でお土産を買い、沖縄ソバを食べ、それぞれ大阪・福岡へと楽しい旅を終えたのであります。

落語の『二人旅』も気の合う二人がのんびりと掛け合い漫才をしながら旅を楽しむ、このような旅だったのかなと、遠い昔に思いを馳せながら、あばら家一門の『還暦二人旅』は終わりを告げました。

次回は秋の紅葉『みちのく二人旅』を計画致しております。

あばら家 笑司 (沖井 孝志) 昭和 49 年卒

全国行脚で OB・OG こんにちは!!



まづいやの店頭で左から大塚秋夫・間島健一両氏

年明け早々、5 日間ほど上京することとなり手すきの合間に大塚・間島両氏(S49 卒)にお会いすることになり、常磐線亀有駅南口で 17 時に待ち合わせた。そして徒歩 4 分程のところにある「まづいや(笑える店名であるが地元では名の知れたおでん中心の廉安な居酒屋)」へ直行しラストまでよもやま話に花を咲かせる。親父に閉店で追い出された直後に撮影。ちなみに、間

島さんは第 41 回東京都写真展(主催: 東京都写真連盟・朝日新聞社)に入賞されました。心よりお慶び致します。これからも「人の心を驚つかみ」してくださいね!

そしてもうお一人、4年越しの思いがけない現在、リーガロイヤルホテル東京に勤務の濱本龍太郎(花見亭 歛白 S55 卒)に私自身は初対面であったが、ホテルにてお話しできる時間を頂いた。彼は平成14年に岡山で開かれたOB会に際し、昭和49年卒(創設時)～平成10年卒OB・OGの約100名の名簿を調べ作成してくれていた。この名簿が平成23年から定期的に行われるようになった「OB会」や「かわら版発行」の礎となった。「我や、俺や」と、とかく目立ちたがりのOBの多い中で、地味で志の高いOBの存在があったからこそ曲がりなりにも「OB・OG会」を存続することができている。感謝! 感謝です。今回、彼



リーガロイヤル東京喫茶部にて： 濱本氏

からの原稿は多忙にて間に合わないようですが、次号には間に合うようだ。みなさん楽しみに待っていてください。

ついでながら、大学同窓会の各支部の活性化を考える時、「軟式野球」等のクラブ同窓会活動の仕掛けなどは大いに参考になるのではないかと思う。そして「仲良し懇談会」からの飛躍を期待する。再編された佐賀県支部や全国集

会を開催された長崎県支部の役員の皆さんは限られた人材の頭脳を駆使し、特定の人に負担をかけることなく効果的な活動今後押し進めていただくこと心からお祈りします。

(編集局)

かけ橋

今年も年初早々、市大落研から「第41回 追い出し寄席」の案内と招待券が届いた。早速、下関在住のOBにお願いして1月24日(土)に寄席の様子を見に行っていた。以下にその後メールで頂いた感想等掲載します。

まず寄席の案内表示が学内には全くなし。学外にはもちろんありませんよ。大学に軽トラックベンツで乗り付け検問所のおっさんに話をするも開催場所の説明をするまで全く分からない状態でした。

開催場所の厚生会館を教えてもらいその談話室にいくと学生が数人談話、勉強(自習)中。来週から後期試験だそうです。金屏風と高座の用意あり。入り口付近で待っていると落研の部員が寄ってきて案内をしてくれました。粗末なパンフレットをくれたよ。中でパンフレットを読んでいた時、高座近くで準備中かなと思える女子学生に声をかけると落研部員で4年生今日高座に出ますとの由。少し話をしました。今日は追い出し寄席?と聞く

とそうですとの返事。最近は立て看板などなく、外部のお客さんは多くて10人くらいです。開催場所が急きょ変更になったことについても急でしたから連絡できなかったんですよ、他人事。小生がOBで息子が大学のキャリアセンター職員だと話すとえっ！？



創作落語:親の顔 あばら家屁々林

尼子さんですか？息子の方が有名でした。寄席が始まったけど今年は男1名女3名の追い出しです。

寄席の内容、噺の技量云々は別にして近隣の大学落研が消滅している中、44年経っても未だ下関市立大学落語研究会を存続してくれている在学生にお礼を言いたく有難く思います。

2時間30分近く、ケツが痛かったです。写真を別メールで送ります。

あばら家 笑和（尼子 和男）昭和49年卒

編集後記

「かわら版」の記事集めも発行期限になってあわてることもなくなってきた。来年は2年に一度の「OB・OG会懇親旅行」が「博多」で開催される予定になっている。福岡の松尾(春好亭 晋平)さんが大はしゃぎで「まかしとけ・・・」と言っていたが、一人ではどうにもならない。下関のOB・OGも巻き込んでやるしかないと思う。またぞろ、元気な会員各位との再会が楽しみになってきた。（編集局）